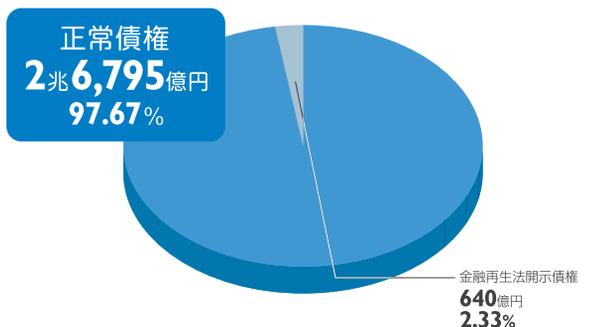


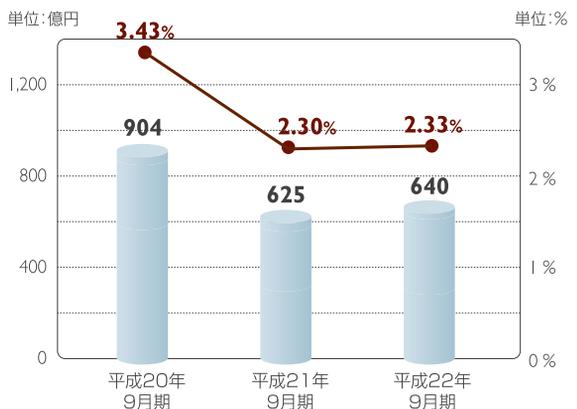
不良債権残高、不良債権比率とも 低位で推移しています

不良債権の状況

金融再生法に基づくしがぎんの開示債権の合計は640億円、総与信に占める不良債権比率は2.33%となりました。



金融再生法開示債権



不良債権比率

用語説明

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみるモノサシの一つになります。

お知らせします、 しがぎんの業績

業績ハイライト

- 業務粗利益は、収益の根幹をなす資金利益が市場金利の低下により微減となったものの、投資信託等の販売を中心とした役務取引等利益が回復したことに加え、債券関係損益の増加により、前年同期比14億円の増益となりました。
- 経常利益は、「問題は先送りしない」という方針のもと、厳正な自己査定を実施し、不良債権処理を進め、与信コストが増加したことにより、34億円と前年同期比11億円の減益、中間純利益も13億円と同12億円の減益となりました。

単位:億円

	平成21年 9月期	平成22年 9月期	前期比
業務粗利益	324	339	14
資金利益	280	280	△0
役務取引等利益	31	31	△0
その他業務利益	11	28	16
うち債券関係損益	9	23	14
経費 (△)	228	225	△3
一般貸倒引当金繰入額① (△)	△17	9	26
業務純益	112	104	△8
臨時損益	△66	△69	△3
うち株式関係損益	△0	△7	△7
うち不良債権処理額② (△)	59	55	△4
経常利益	46	34	△11
特別損益	9	△7	△17
うち偶発損失引当金戻入益③	8	-	△8
うち減損損失 (△)	3	11	8
中間純利益	25	13	△12

与信コスト(①+②-③)	34	64	30
--------------	----	----	----

しがぎんの業績推移

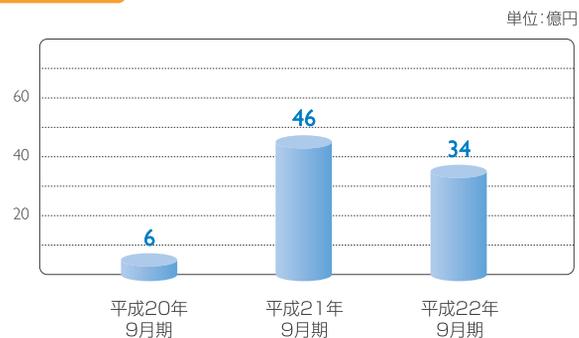
業務粗利益

銀行本来の業務(貸出業務、為替業務、有価証券運用など)から得た利益です。



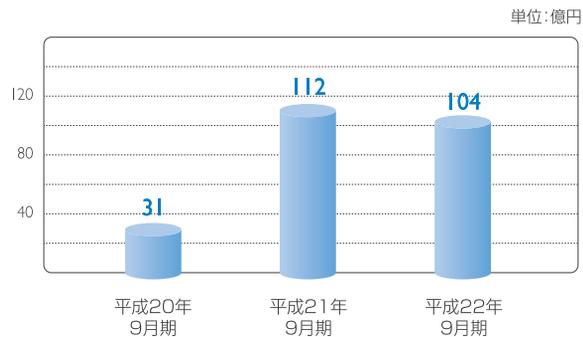
経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。



業務純益

一般企業でいう営業利益にあたります。
 $業務純益 = 業務粗利益 - 経費(人件費、物件費等) - 一般貸倒引当金繰入額$



中間(当期)純利益

経常利益から法人税や事業税を差し引いた最終的な当期の利益です。

